

1 単元名 武家政権の成長と東アジア

2 単元について

(1) 生徒観

1年1組は、男子20名、女子20名の計40名のクラスである。学習意欲や学力に差はあるものの、まじめに授業に取り組むことができている。挙手や発言は1年生4クラス全体から見るとやや積極性に欠けるところがあるものの、4人1組の小グループでの活動においては自分の考えを仲間に伝えたり、仲間の考えを聞いたりすることで自分の視野を広げたいと考える生徒が多く、小グループの活動を熱心に楽しみながら取り組む様子が見られる。

(2) 教材観

本単元は、現行の中学校学習指導要領（以下指導要領とする）歴史的分野（3）「中世の日本」（新指導要領では歴史的分野（2）「中世の日本」）にあたり、12世紀ごろから16世紀ごろまでの歴史を扱い、我が国の中世の特色を、世界の動きとの関連を踏まえて学習させる。

この時代を端的に表すならば、古代までの天皇・貴族が中心であった政治から、武士が中心となった政治が始まることによって政治のみならず、経済・文化なども大きく変化した時代といえよう。政治では、貴族による政治（摂関政治）の荒廃を背景に武士が台頭し、主従の結びつきや武力を背景に支配を広げ、御家人制度を基盤とする鎌倉幕府が成立した。鎌倉幕府滅亡後、南北朝の争乱の中で室町幕府が成立し、その支配が全国に広がっていった。対外的には、元寇とその後の影響により中断した時期もあったが、東アジアとは交易などで活発な交流が見られた。それを背景とした技術面の進歩により、農業や手工業が発達・商業が活発化し、民衆の生活が向上した。その結果、室町時代に入ると都市や農村において惣や町衆といった自治的な組織が生まれ、社会や文化に大きな影響を持つようになった。

このように、中世は政治・対外関係・経済・社会・文化といった様々な面で大きな変化があった時代である。それらの変化を「単元を貫く課題」や「毎時間の学習課題」と絡ませることで、生徒に「社会的事象の歴史的な見方・考え方」を働かせることを促し、多面的・多角的に考察・表現させることのできる単元であると考えられる。

(3) 指導観

新指導要領では、歴史的分野の目標（1）において、「我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けようとする」とし、歴史的分野の学習の中心が「我が国の歴史の大きな流れ」の理解であり、「各時代の特色」はそのために踏まえるべきものという位置づけを示している。これは現行の指導要領の趣旨を引き継いだものである。現行の指導要領では「我が国の歴史の大きな流れ」を理解させるために踏まえておくべき「各時代の特色」をとらえさせる手立ての例として以下のように示している。

学習に当たっては、「各時代の学習の初めにその特色の究明に向けた課題意識を育成」（内容の取扱い）するための、学習の動機付けが求められる。例えば、生徒がもっているその時代のイメージを表現させたり、前の時代との違いを予想させたりすることなどが考えられる。これによって、その時代全体の特色をとらえることが学習の基本的なねらいであることを意識して学習を進めさせることが大切である。

そこで、小学校社会科での学習経験（本校の全体研究で示すところのスキーマ）を活用し、単元を貫く課題を「天皇や貴族中心の政治から武士による政治に変化しただけでなく、武士による政治が続いたのはなぜか。」と設定した（課題の設定の手順は次項に記述）。生徒には15時間の授業を通じ、武家政治の展開・東アジアとの交流・産業の発達・社会の様子・文化の特色などに着目させて、単元を貫く課題の解決に向けて多面的・多角的に考察させていきたい。

また、学習の過程においてノートに調べたことや資料から読み取ったこと（事実）を書かせるだけでなく、それらの事実を根拠にして自分の考えを書かせたり、小グループで意見交流したりする場の設定や、学びの記録（詳細は次項に記述）を活用し、生徒が毎時間の授業をふり返る時間の保障をしていきたい。

単元のまとめにおいて、「武士による政治が続いたことに最も影響を与えた歴史的事象を選ぶ」という学習課題を組み込んだ。中世は武士による政治が行われていたものの、朝廷と幕府の政権の移り変わりが激しい時期でもあった。また、東日本の武士が中心となり御恩と奉公の関係で将軍と結ばれた鎌倉幕府の政治と、将軍・全国の有力守護大名による連合政権の色が濃い室町幕府の政治というように、同じ武士による政治ではあるが、一括りにとらえることが難しい時期でもあった。そこで、単元のまとめにこの学習課題を設定することで、生徒は単に武士による政治が始まっただけでなく、武士による政治が「形を変えながらも続いた」時代という、中世の歴史に対するより深い解釈に達すると考えられる。また、このような学習課題を設定することで単元を貫く学習課題の「続いたのはなぜか」に、より効果的に迫れることが予想される。

今回の実践が、新指導要領が定める「中世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現すること」の具体的実践のモデル例となればと考えている。

3 全体研究との関わり

①本單元における「見方・考え方」（全体研究1年目の視点）

生徒は、中世の歴史について学習をする際、「いつ（どこで、誰によって）おこったか」、「前の時代とどのように変わったか」、「なぜ、おこった（何のためにおこなわれた）か」、「どのような影響を及ぼしたか」、など社会的事象の歴史的な見方・考え方の視点に沿って、毎回設定される学習課題のもと授業に取り組んでいる。しかし、これらの視点だけでなく、「周辺諸国とどのような結びつきがあったのか」といった視点のように、社会的事象の地理的な見方・考え方の視点も入れて学習する場面も考えられる（さらには、歴史的分野の学習であっても、現代社会の見方・考え方の視点を場面に応じ使い分けることも考えられる）。これは、本校社会科で見直しを行い、新しく捉えた見方・考え方（詳細は教科総論P4）に通ずると考えられる。

②本單元における「見方・考え方」を働かせた学びを通して育成した資質・能力を見取る評価（全体研究2年目の視点）

・「学びの記録」の活用（形成的評価）

本校社会科では毎時間の授業のふり返りのために、「学びの記録」というプリントを作成している。「今日の授業で一番大切だと思うこと」を授業の終末で記述する場面を設定している。この活動は生徒が自らの学びの成果を見取るために有効であるとともに、指導者にとっても学習課題に対して、生徒がどこまで迫ることができたのかを見取る上で重要であると考えられる。その際、注意しなければならないのは生徒の記述に対する指導者の反応である。指導者のねらいと生徒の得た学びに「ズレ」が生じていた場合には、それを適切に正していく必要がある（実際に生徒と記録用紙上でやり取りをして軌道修正をさせている）。さらに、生徒自らが単元を通じての学びの変容を見取ることができるよう、単元の始めと終わりに「単元を貫く課題」に対する考えを記述させ、学びの深まりに気づくことができるようにして

いる。

・他者との意見交換の場の設定

生徒が学びから得たものを活用し、学習課題に対する答えを他者にわかりやすく伝えようと自らの考えを構築するために発表の場を設けることは重要である。本時では、他者と意見交換することで、自分の見方・考え方では見いだせなかった視点に気づく機会にしてもらいたいと考えている。さらに、他者の考えも活用し、学習課題に対する自らの考えを再構築させるようにしたい。

他者との意見交換の一般的な形態として、「①個で考える→②小グループで共有する→③全体で共有する」があげられるが、本時においては、「①小グループで考える→②全体で共有する→③個で考える→④再度全体で共有する」という形態で実施する。生徒の実態の項にもあるように、学習意欲や学力に差があり、自らの考えを構築するのが難しい生徒の存在もある。そこで、普段から実施している小グループでの活動を通して、自らの考えを構築する手がかりを掴んでほしいと考え、このような形態とした。

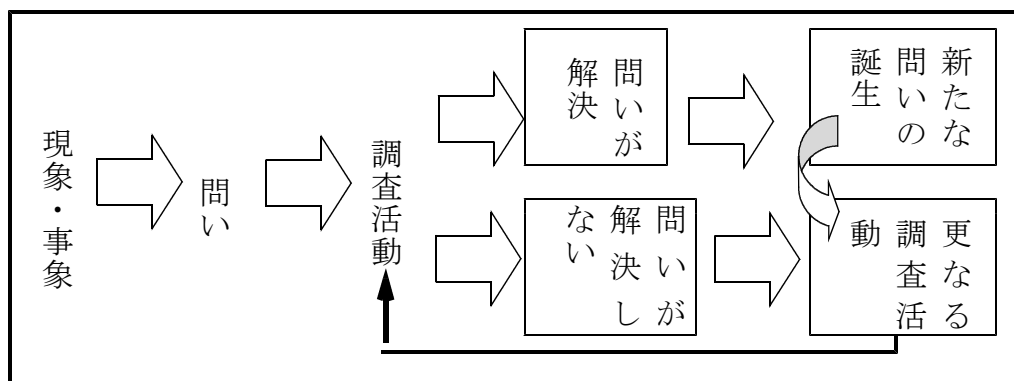
・パフォーマンス課題の設定（総括的評価）

生徒が単元を通じて学んだ知識やスキルを文脈において使いこなせるような「永続的知識」を獲得しているかどうかを確かめるためにパフォーマンス課題を設定したい（課題の具体は、7 本時の展開で記述）その評価に対しては多様な表現が予想されるので、ルーブリック（評価指標）を取り入れ、指導者と生徒が客観的な尺度としてその達成状況を判断し、評価を共有することで、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育成していきたいと考える。

③総合的な学習の時間との関連（全体研究最終年度の視点）

本校では総合的な学習の時間のことを「SELF」と呼び、発達段階に応じた探究的な学習活動に取り組んでいる（以下SELFと記載）。本校では全体研究最終年度の視点としてSELFを軸にした教科横断型の教育課程の編成に着手・実践していこうと考えている。現在、この授業をする1年生では「課題設定能力」の育成を重視した探究的な学習活動をSELFの授業で行っている。その中で、生徒は以下にあげる3点を学んできた。

- i 問いとは何も知らない状態から生まれてくるだけでなく、一定の知識があった状態からでも生まれてくるものである。（以下に図として示す）



ii 問いにはレベルがある。(以下に図として示す)

	問いのレベル	問いの性質
大きな問い	4	調査結果だけでなく、自分の意見や何らかの判断を考える必要がある。
	3	多角的・多面的に調べ、それらを組み合わせれば答えられる。
小さな問い	2	基本的なこと(例：5W1H)を調べれば、おおよその答えが見つかる。
	1	単純な「はい」・「いいえ」で答えられる。

※本校社会科では、新指導要領が示す「考察」はレベル1～3を、「構想」はレベル4につながると認識している。

iii 大きな問いは、学習が進む中で必要に応じて見直していくことがある。

指導観の項でも記述したように、単元の冒頭において、小学校時代のふり返しを行った。ほとんどの生徒が「中世になり政治の中心が天皇や貴族から武士へと変わったこと」を知識として有していた。SELFを通して生徒は上記のような課題設定能力を身に付けてきていたので、政治の主体は変わったという事実から何か新たな疑問が出ないかと投げかけたところ、生徒から「どうして政治の主体が変わったのか」という新たな疑問が出された。生徒から出された新たな疑問は単純な知識としての問い(小さな問い)ではないと判断できたため、「天皇や貴族中心の政治から武士による政治に変わったのはなぜか」を単元を貫く学習課題として設定した。

しかし、授業が進むにつれて生徒から「この単元を貫く課題では、はじめの数時間で課題に対する答えが出てしまう」という意見が出たため、単元を貫く課題の見直し作業を行った。見直し作業を通して、生徒から「平安時代から鎌倉時代になり、天皇・貴族中心から武士中心の政治に変化したか、その後、後醍醐天皇が政治を行った時期があったことからわかるように、中世は天皇や貴族中心の政治が混在しながらも武士による政治が続いている」という意見が数多く出された。そこで、当初の単元を貫く学習課題に加える形で、「天皇や貴族中心の政治から武士による政治に変化しただけでなく、武士による政治が続いたのはなぜか。」を設定するに至った。

また、生徒がどのような課題設定においてどのような視点をもって問いを作ればよいのかをSELFを通じて身に付けてきたので、毎時間の授業において、導入時に生徒が有している既存の知識を活用しながら本時の授業で学習することを予想させ、生徒の言葉で学習課題を設定することも行っている。

4 単元の指導目標

- (1) 武家政権の成立とその支配の広まり、東アジア世界との密接な関わり等、中世の歴史的事象に対する関心をもたせるとともに、意欲的に追究し、中世の特色をとらえようとする態度を育てる。
- (2) 武家政権の成立とその支配の広まり、東アジア世界との密接な関わり等、中世の歴史的事象の特色について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現させる。
- (3) 武家政権の成立とその支配の広まり、東アジア世界との密接な関わり等、中世の歴史的事象に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読

- み取らせたり，図表にまとめたりさせる。
- (4) 武士が台頭して武家政権が成立し，その支配が次第に全国に広まるとともに，東アジア世界との密接な関わりが見られたことについて理解させる。

5 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
<p>武家政権の成立とその支配の広まり，東アジア世界との密接な関わり等，中世の歴史的事象に対する関心を高めるとともに，意欲的に追究し，中世の特色をとらえようとしている。</p>	<p>武家政権の成立とその支配の広まり，東アジア世界との密接な関わり等，中世の歴史的事象の特色について多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。</p>	<p>武家政権の成立とその支配の広まり，東アジア世界との密接な関わり等，中世の歴史的事象に関する様々な資料を収集し，有用な情報を適切に選択して，読み取ったり，図表にまとめたりしている。</p>	<p>武士が台頭して武家政権が成立し，その支配が次第に全国に広まるとともに，東アジア世界との密接な関わりが見られたことについての知識を身に付けている。</p>

8 本時の授業

(1) 日 時 平成31年1月16日(木) 14:00~14:50

(2) 場 所 山梨大学教育学部附属中学校 1年1組

(3) 題材名 「武士による政治が続いたことに最も影響を与えた歴史的事象を選ぼう」

(4) 本時の指導目標

- ・中世の特色である武士による政治が続いたことに最も影響を与えたポイントとなる歴史的事象を選び、それを多面的・多角的に考察し、表現することができる。【社会的な思考・判断・表現】

(5) パフォーマンス課題

全国学芸サイエンスコンクールの社会科自由研究部門に「天皇や貴族中心の政治から武士による政治に変化ただけでなく、武士による政治が続いたのはなぜか」をテーマにレポートを作成し仲間と応募することになった。レポートを作成する中で、中世の武家政治が続いていく上で最も影響を与えた出来事を考える際に仲間の意見が以下のように分かれた。

- ① Aさんの意見：承久の乱
- ② Bさんの意見：御成敗式目の制定
- ③ Cさんの意見：南北朝の合一

レポート制作の仲間であるグループメンバーと意見交換し、どちらがより中世の武士による政治が続いたことに最も影響を与えた出来事と言えるか。話し合いなさい。

※①・②・③の意見のほかに④として、別のポイントを入れてもよい。

※そのように考えた理由を幕府・朝廷両方の立場から考え、必ず示しなさい。

注：全国学芸サイエンスコンクールは旺文社が主催する実際に行われているコンクールであり、その中に小中学生対象の社会科自由研究部門も存在している。

(6) 展開

	指示・発問など	教授・学習活動	資料	習得させたい知識・予想される反応
導入	〔1 学習内容の復習〕 ・前時の復習	(T:教師 S:生徒) T：質問する S：答える		
5分	〔2 学習内容の確認〕			
	<p>全国学芸サイエンスコンクールの社会科自由研究部門に「天皇や貴族中心の政治から武士による政治に変化したただけでなく、武士による政治が続いたのはなぜか」をテーマにレポートを作成し仲間と応募することになった。レポートを作成する中で、中世の武家政治が続いていく上で最も影響を与えた出来事を考える際に仲間の意見が以下のように分かれた。</p> <p>① Aさんの意見 (A)：承久の乱</p> <p>② Bさんの意見 (B)：御成敗式目の制定</p> <p>③ Cさんの意見 (C)：南北朝の合一</p> <p>レポート制作の仲間であるグループメンバーと意見交換し、どちらがより中世の武士による政治が続いたことに最も影響を与えた出来事と言えるか。話し合いなさい。注1：①・②・③の意見のほかに④として、別のポイント(D)を入れてもよい。注2：そのように考えた理由を幕府・朝廷両方の立場から考え、必ず示しなさい。</p>			

<p>展開 1 20分</p>	<p>〔3 学習課題を吟味する①〕 ・今回の学習課題に対する意見交換を行きましょう。</p> <p>・各グループからどんな意見が出されたのでしょうか。リーダーは発表してください。</p>	<p>T：指示する S：思考する S：同じグループの仲間と意見交換する S：ホワイトボードに書く。 S：メモを取る。</p> <p>T：指示する S：他グループの仲間の意見に触れる</p>	<p>・その他として、鎌倉幕府の成立や元寇が想定される。 ・他者の考えを聞き、違う視点で物事をとらえることができることに気づく。</p> <p>・他グループの考えを聞き、違う視点で物事をとらえることができることに気づく。</p>
<p>展開 2 20分</p>	<p>〔4 学習課題を吟味する②〕 ○中世の武士による政治が続いたポイントとなる出来事はAかBかCか、それともDか。そう考えた理由を幕府・朝廷の両方の立場から示しなさい。なお、先ほど出された他の班の意見も参考にしていよいものとする。</p>	<p>T：発問する S：思考する S：用紙に自分の考えを表現する</p>	<p>・Aだと考える。理由は承久の乱により後鳥羽上皇をはじめとする天皇や上皇を島流しにしたり、朝廷を監視するために六波羅探題を設置したりするなど朝廷の権力を弱めたから。また、承久の乱後、西日本の多くの荘園で、幕府の御家人が新たに地頭に任命され、幕府による支配がこれまで以上に広がったから。</p> <p>・Bだと考える。理由は御成敗式目は武家によってはじめて作られた法であるからだ。事実、古代は律令という法にもとづき天皇や貴族中心の政治が行われていた。武家による法が作られたということは武士による政治が続く上で最も影響を与えたポイントになると判断できるから。</p> <p>・Cだと考える。理由は室町幕府の3代将軍の足利義満が、南北朝に分かれていた天皇家の混乱を終わらせたから。朝廷から見れば、義満の支援がなければ自分たちの問題を解決できないということになる。承久の乱のような勝ち負けではない形で朝廷に対して優位に立てたということは、武士による政治を続けていく上で大きなポイントになると判断できるから。</p> <p>・Dで鎌倉幕府の成立だと考える。将軍を頂点に据えた鎌倉幕府のしくみは、その後成立した室町幕府でも多くの部分が引き継がれており、武家による政治が続いたもとをつくったといえる出来事であるから。また、朝廷としても初めて幕府という武家による政治組織を認めたのが鎌倉幕府であり、武家による政治が続くきっかけをつくったといえる出来事であるから。</p>
	<p>○中世の武士による政治が続いたポイントとなる出来事と、その理由を発表してくれる人はいますか？</p>	<p>T：発問する S：自分の考えを発表する</p>	

	・ルーブリックについての説明を行い、その後、ルーブリックに基づいて、表現したことについての自己評価を行う。	T：説明する T：指示する S：自分の考えを自己評価する		
まとめ 5分	〔5本時のまとめ〕 ・本時で学習で学んだことや考えたことを学びの記録に書き、振り返ろう。	T：指示する S：書く		

(7) 本時の評価

- ・中世の特色である武士による政治が続いたことに最も影響を与えたポイントとなる歴史的な事象を選び、それを多面的・多角的に考察し、表現することができたか。【社会的な思考・判断・表現】

- ・本時におけるルーブリック

レベル	パフォーマンスの特徴
3 (A)	ノートや教科書・資料集等に書かれていることを参考に、朝廷と幕府の両方の視点を入れ、武士による政治が続いていくことに最も大きな影響を与えた出来事について、歴史の授業で学習した出来事・語句を3つ以上用いて説明している。
2 (B)	ノートや教科書や資料集等に書かれていることを参考に、朝廷と幕府の両方の視点を入れ、武士による政治が続いていくことに最も大きな影響を与えた出来事について、歴史の授業で学習した出来事・語句を1～2つ用いて説明している。
1 (C)	ノートや教科書・資料集等の記述を参考にしているが、朝廷または幕府という片方の視点しか入っていない。 また、武士による政治が続いていくことに最も大きな影響を与えた出来事について、適切な歴史的な出来事を選べていない。文章の意味が羅列されているだけで主張がない、または未完成である。

(8) 板書計画

<p>Q：武士による政治が続いたことに最も影響を与えた歴史的な出来事は何か？</p>	ホワイトボード											
<table border="1" style="width: 100%; height: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; height: 40px;"></td> <td style="width: 20%; height: 40px;"></td> <td style="width: 20%; height: 40px;"></td> <td style="width: 20%; height: 40px;"></td> <td style="width: 20%; height: 40px;"></td> </tr> <tr> <td style="width: 20%; height: 40px;"></td> <td style="width: 20%; height: 40px;"></td> <td style="width: 20%; height: 40px;"></td> <td style="width: 20%; height: 40px;"></td> <td style="width: 20%; height: 40px;"></td> </tr> </table>											<table border="1" style="width: 100%; height: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 100%; height: 40px;"></td> </tr> </table>	

※この他にもテレビ画面を用いて、資料を提示していく。

9 資料・参考文献

- ・「中学校学習指導要領」 (2017) 文部科学省
- ・「中学校学習指導要領解説 社会編」 (2017) 文部科学省
- ・「中学校学習指導要領」 (2008) 文部科学省
- ・「中学校学習指導要領解説 社会編」 (2008) 文部科学省
- ・高橋昌明「武士の日本史」(2018) 岩波書店
- ・五味文彦編「新 もういちど読む山川日本史」(2017) 山川出版社
- ・五味文彦編「大学の日本史②中世」(2016) 山川出版社
- ・本郷和人「NHK さかのぼり日本史⑧室町・鎌倉」(2012) NHK出版